

平成28年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(理科)科目：(生物基礎) 対象：(第 1学年 A組～ E組)

科目担当者：(A組：) (B組：(印)) (C組：(印)) (D組：(印)) (E組：(印))

教科・科目の 指導目標	身近な生命現象から、最新の知見まで、生命現象に関する基本的な概念を科学的に理解させる。あわせて 科学的なものの見方・考え方を身につけ豊かな自然観を育てる。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	理科の入試問題の中で生物分野の問題について分析した。 大問2の問2 トウキョウサンショウウオの幼生時と成体時での生活様式に関する問題であった。知識問題であり、正答率は高かった。 大問4 酵素に関する問題であった。知識を問う問題の正答率は高かったが、実験考察問題の正答率が低かった。	①身の回りにおける自然現象を、理論的、科学的に考え、分析する力を身につけさせる。 ②自然科学の基礎知識の定着を図る。 ③身近なところで起こっている様々な現象について、その背景や理由を考える習慣を身につけさせる。	①問題演習を通して、必要とされる基礎知識を認識させると共に、その定着を図る。 ②定期考査に向けた準備の仕方を指導すると共に、希望者に考査前の補習や長期休業中の講習を行う。 ③基本事項の定着に重点を置いた授業計画をたて、それに沿った定期考査を実施する。 ④理数フロンティアの取り組みとしての大学生スタッフによる考査前の学習支援、自習室での取り組み、放課後の指導を通して、基礎力や応用力の不足を補う。 ⑤勉強合宿等で、日頃取り組めない入試問題や、論理的思考を要する問題に取り組ませる。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			